

(3) 漁況海況予報事業

沖縄海域の海況の季節変動を把握し回遊性魚類であるカツオ、トビウオ類、トビイカ等の漁場形成、季節消長との関連を調査研究することを目的に本事業を実施した。

沖縄西方海域の沖合定線調査を年5回、図南丸216.09トンで実施した。また沖縄東方海域の沿岸定線調査をくろしお214.4トンで年11回実施した。調査内容は一般海洋観測、産卵調査である。

昭和51年黒潮の流量は平年より多く、夏季に琉球列島寄りの南下反流は強勢であった。黒潮流軸は沖縄の北西78~100浬にあり、大陸棚斜面から小幅の離接変動をくり返しながら北東~北々東へ流去した。水温の季節変化を平年値と比較すると、冬季~夏季は低目に、秋季は平年並に経過した。一方200m層水温は前年比、黒潮域で夏季に一番高目となったが、春、秋とも低目に、沖縄東方では前年比低目に経過した。表面塩分は前年比高カンで200m層はやや低カンに経過した。尚、海洋観測結果はそのつど水産庁その他関係機関に報告した。

近海カツオ竿釣の昭和51年漁況は本部・宮古とも低調であったが、回遊魚群量が例年より少なかったこと、カツオ餌料の発生量も少なかったことが要因である。トビウオ類の水揚量は前年をやや上回った。トビイカは漁期の開始が6月にみられ例年より早かったが、9月の盛漁期に低調もあって水揚量は前年を下回った。

海況との関連では、春~夏に低水温であったこと、夏型海況への移行が例年より遅れたことが、回遊性魚類の不漁要因になったと思われる。

なお、海洋観測、産卵調査結果の詳細な報告は、昭和51年度漁況海況予報事業結果報告書として別刷で行う予定である。

実施概要

沖合定線調査 定線名 久米島北西沖合定線

| 航次 | 調査年月日 | 船名 | 測点数 | 調査員 | 備考 |
|----|-----------------------|-----|-----|-------|--------|
| 1 | S 51. 6. 16 ~ 6. 18 | 図南丸 | 12 | 川崎、吉川 | 補助点11点 |
| 2 | S 51. 8. 3 ~ 8. 5 | " | 12 | 友利 | - |
| 3 | S 51. 10. 14 ~ 10. 16 | " | 12 | 川崎 | - |
| 4 | S 51. 12. 8 ~ 12. 10 | " | 12 | 川崎、金城 | 補助点11点 |
| 5 | S 51. 2. 9 ~ 2. 12 | " | 12 | 吉川 | - |

沿岸定線調査 定線名 沖縄南部沿岸定線、金武湾沿岸定線

| 航次 | 調査年月日 | 船名 | 測点数 | 調査員 | 調査定線 |
|----|-----------------------|------|-----|-----|----------|
| 1 | S 51. 5. 7 ~ 5. 11 | くろしお | 10 | 吉川 | 沖縄南部 |
| 2 | S 51. 6. 16 ~ 6. 18 | " | 18 | 友利 | 沖縄南部、金武湾 |
| 3 | S 51. 7. 22 | " | 10 | 吉川 | 沖縄南部 |
| 4 | S 51. 8. 17 ~ 8. 19 | " | 15 | 吉川 | 沖縄南部、金武湾 |
| 5 | S 51. 9. 20 ~ 9. 21 | " | 8 | 久貝 | 金武湾 |
| 6 | S 51. 10. 26 ~ 10. 27 | " | 10 | 喜屋武 | 沖縄南部 |
| 7 | S 51. 12. 16 ~ 12. 17 | " | 18 | 喜屋武 | 沖縄南部、金武湾 |
| 8 | S 52. 1. 17 ~ 1. 19 | " | 18 | 吉川 | 沖縄南部、金武湾 |
| 9 | S 52. 3. 11 ~ 3. 12 | " | 10 | 吉川 | 沖縄南部 |

本調査は、沖縄南部の海岸を走る沿岸定線調査である。主な目的は、海岸の変動状況の把握、海岸の特性や地質の調査、海岸の利用状況の調査等である。また、海岸の防護工事の検討、海岸の開拓や埋立工事の検討等も目的である。調査は、主に船による現地調査と、測量機器による測量調査を行った。測量機器は、GPS、測量用ロープ、測量用器具等である。現地調査では、海岸の形状、土質、水深、波浪等の観察を行った。また、測量調査では、海岸の位置、高さ、傾斜度等の測定を行った。測定結果は、測量機器による測量結果と現地調査による観察結果を組み合わせて、海岸の変動状況や海岸の特性等を把握するためのデータとした。また、海岸の利用状況については、現地調査による観察結果と測量機器による測量結果を組み合わせて、海岸の利用状況を把握するためのデータとした。